

開 心  
静 聴  
充 満  
献 身  
奉 仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

冬 季 号

# 日本アシュラム

WINTER 1987

United Christian Ashrams of Japan

57

連盟は創始者の祈りによって各地に生きた福音の全体的な交わりであって、常に新しい地区(単位)の参加を期待している。

## 「インド途上のキリスト」 — 主を体現した軌跡 —

日本キリスト召団代表

小 池 辰 雄

スタンレー・ジョーンズの生涯について本書の序文をもって海老沢宣道氏(アシュラム連盟理事長)が紹介しておられるが、スタンレーは正に「二十世紀の偉大な伝道者・主の僕」であった。彼はインドを愛し、主に従い、主に在って、インド伝道に生涯の大半を尽したからこそ「インド途上のキリスト」を告白したのであった。

彼はインドを霊的能力ある偉大な民族と感じ、キリストを聖霊に在って生きていることがキリスト者であることをインドのキリスト者に期待し、これはインドと世界にとって極めて意味重大なことであると告白している。

もちろん彼の伝道には多種の困難

や妨害が伴っていた。さればこそ長年月を要したのであった。タゴールの忠告をまつまでもなく、彼はパウロのごとく、「弱き者には弱き者となり、律法の下にある者には律法の下者となり」、インド固有の良さを十分尊重しながら、キリストへと導き入れる伝道の道を実践した。

彼はガンジーのインド独立のための捨身の愛において、十字架を見たが、十字架のキリストを土台としながら、仏教徒やマホメット教徒の抵抗や迫害にも屈せず、聖霊の力に裏づけられたキリストと合一の神秘道を買いたのであった。

しかし彼は反対者ともよく問答をした。それもあたたかい愛をもった問答で、決して議論めいたものではない。信條的なものや、主義的なものや、統一的なものにはパライシ的なものから、彼の問答は相手の自主性と実践にゆだねるものであった。相手はインド途上のキリストをきている彼に、知らぬ間に融合することしばしばであった。いわゆるキリスト教徒はたくさんいる。しかしイエスのみ霊をもつ「キリストの人間」は

少ない。今や全世界のキリスト教界の要する者は、キリストの人間、卒直に言うならば、実践的キリスト人間である。

本書の頂点は第十一章「具体的なキリスト」である。そこに何が書いてあるかは、既に分析するいとまがない。是非とも本書を「トレ・レゲ」(執りて読み給え)である。  
新記者 渕江淳一氏の祈りと魂を集めたこの訳業に、心からの敬意を表する次第である。  
(キリスト新聞、12月25日号より)

## 訪問伝道と アシュラム

荻窪栄光教会牧師

森 山 論

このたびは長友 渕江淳一牧師が、スタンレー・ジョーンズ著「インド途上のキリスト」を新訳して出版した。「新訳」というのは、同書はずで故金井為一郎師が翻訳出版しているからである。金井師の名訳ではあるが、日本の文章は急速に変わっているので、渕江師が改めて現代文で翻訳したのは、平易でかつ名文である。ジョーンズ師は日本の恩人でもある。日米開戦直前、使命の地インドに出発しようとして汽船に荷物を積み込んだが、開戦の危機を感じて、

編集人 海老沢 宣道  
発行人 大石 嗣郎  
定価 一部60円 千60円

荷物をおろし、わが国の賀川豊彦師に祈りを依頼する電報を打ち、日米共に平和の祈禱会を開いた。ルースベルト大統領に戦争反対を泣訴、同大統領から日本の天皇に開戦をどめてほしいとの親電を打たせた。その親電は日本の軍部が握りつぶして天皇に渡さず、あの悲劇の開戦となったが、終戦後は、戦争の真の原因は日本の過密人口にありとして、その対策を国連に訴えもした。そして戦後訪日すること十回、インド途上のキリストは、また日本途上のキリストでもあった。そしてわが国に「訪問伝道」と「アシュラム」とを移植した。それが今、日本のキリスト教界に広く開花している。戦後十回目の日本伝道の際には、それまでのNC系のみでなく、福音陣営にも協力してほしいとの要求があり、福音派の指導者は「ジョーンズ師の信仰内容を調査せよ」と私に命じられた。私はすぐに海老沢宣道師から博士の著書を十冊ほど借り受けて読破。師の信仰に脱帽した。師も初めから聖徒ではなかったが、御霊の御迫りを受け、一切を主に明け渡して、聖霊に満たされた。米国メソジスト教会の総監督に推された時、彼に少しでも世の欲があれば、二つ返事で受諾したろうが、「私の使命はインドにあります」と答えて固辞、満堂はすすり泣いて主を崇めたという。師の

霊的聖書講解は光を放つ。本書はこうして師が神の器に造られ、どう働いたかを示す。必読を勧める。  
(クリスチャン新聞12月21号より)



追悼

谷本清理事

海老沢宣道

平和と反核運動の偉大なる指導者の一人、またわがアシュラム運動の有力な推進者の一人であった谷本清牧師が昨年九月二十八日肺炎のために広島医大病院で逝去されたことは、わが国のキリスト教界にとって、掛替えない損失である。

彼は一九〇九年に香川県坂出市に生れ、関西学院とエモリー大学に学ばれ、鹿児島、ロスアンゼルス、那覇ののち、広島流川教会に三十九年間牧会に当り、一九八二年に引退された。一九四五年八月六日原爆により会堂牧師館共に灰燼に帰し、被爆者

となり、この日を「世界平和デー」として守るよう公けに訴えた。三年後に招かれて米国二五六都市を巡回、広島原爆の悲惨を伝え、平和を訴え、一九四九年にはジョン・ハーシーの名著となった「ヒロシマ」を訳出、原爆孤児のため精神的縁組運動を開始、翌年第二回の米国巡回をして、ピース・センターを広島とニューヨーク市に設立した時、アインシュタイン博士が、谷本師も被爆者の一人として登場しているハーシーの書物を一人で千部も購入し友人に配布してくれたことを知った。

アシュラムとの関係はそれより前の一九四九年スタンレー・ジョーンズが初めて来日し全国伝道をした時からで、中国地区委員長として協力され、後年日本アシュラム連盟が結成された時には理事となつて奉仕され、実に三七年の長期に亘り、主に在る霊交を続けることができた。

一九五五年には被爆者乙女二五名を引卒して渡米、治療を受けさせると共に、第三回の一九五都市を平和行脚した。その間に御自身「広島原爆とアメリカ人」という著作を出版された。

一九八二年に牧会を引退されるまでも数回、平和促進のため海外旅行をされた。引退記念の礼拝説教で彼は「あの日市内の至る所から、助けてくれ、と言う叫びを聞いた。然

し妻子のことを思つて、猛火の中へ飛込めなかつた。この事が今も私の心に痛恨となつている」と告白された。この痛みの故に彼は健康を犠牲にするまで平和運動に献身されたのであろう。

アシュラムは単なる個人的信仰の充実だけでなく、神の国待望運動であり、創始者スタンレーの遺志を最も忠実に実行したのは谷本牧師であったと言える。二・三年おきに開催の全国理事会には良く出席されたが、最後に同席したのは昨年一月米国ジョージア州で開かれた第六回国際アシュラムでの数日間、その時も広島島の被爆映画を持参、一同に深刻な印象を与えた。あの濃厚な笑顔は、誰をも憎まず、唯平和の礎となるために、死に至るまで主イエスに仕えた良き忠実な僕であった。

新刊好評

サトタル・アシュラム指導者  
D・P・タイトス著  
植村俊雄 訳

「御国を来らせ給え」

神の国に就ての研究

A6判40頁定価二百円70円  
スタンレーの後継者インドの  
タイトス師の名著

アシュラムの五大原則

好評・再版出来

追悼

宇都宮 充牧師

日本アシュラムの一同は、昨年、もう一つの打撃を受けた。谷本師を九月に、続いて十二月十七日に四国アシュラム委員長、わが連盟の理事として長年に亘り、御協力頂いた宇都宮充師を天に送ることになったからである。

師は一九〇〇年に愛媛県で生れ、東京海外植民学校、関西学院神学部で学び、一九二八年から旧メソジスト教会の牧師となり今治、三重、臼杵を歴任、三五年から松山番町教会で三八年間御奉仕、一九七三年に引退し名与牧師とされた。その間、四国教区長、教団の社会委員として長年にわたり各方面に指導援助の働きをされた。親愛幼稚園長を兼任、それと共に県幼稚園連合会長に推され、電通四国管内の相談役、教悔師として少年院や刑務所の入所者を導き、慈恵会、ガリラヤ荘など福祉事業の理事を引受けておられた。文化



活動としては松山済美会理事長として会館を建設、青少年の健全な育成に尽力し、信仰運動としては全四国修養会の委員長、早くよりスタンレー・ジョーンズ博士に共鳴、四国アシュラムを主催指導し、日本アシュラムの理事としても十数年協力、国際アシュラムがインドのサトタルで開かれた一九八〇年にも、フィンランドのヤルベンパで開かれた一九八二年にも日本代表团に参加して下さった。昨八六年一月米国での国際アシュラムにも出席したが、その前年北米を巡回して少し疲れたので残念乍ら中止するとのお便りがあつた頃から高令と体力の限界を感じておられたようで、愈々病床につかれた時は、奥様に「今度は神様がお召しになるようだ。生きるも死ぬるも主のため、僕が死んだら、これこれにして欲しい」と今後を托され、「感謝、感謝」と繰返して安らかに終りを迎えられたとの事。神学生時代に胸を患った弱体を八六才の高令まで生き抜いて、主の御用に当り、走るべき道のりを走り終え、一切を主に委ねて天に凱旋された。師の著作には「大衆への福音」「農村と福音」「全米バス行脚」「足と心で画く神学」「聖跡を慕ひて」その他多くがある。アシュラムの精神を如実に生涯を通して具現した師を心から追悼し、在天の霊の平安を祈る。

米国アシュラム連盟総幹事  
ウイリアム・ピツカード牧師  
年頭 日本の理事三役と会谈

米国連盟の総幹事リキンス師が六年間の良い働きをして昨年一月、第六回国際アシュラムを最後に辞任され、後任として選ばれたピツカード博士が去る一月三日初めて公式にわが国を訪問された。今回の旅行は第七回国際アシュラムを明八八年五月に韓国ソウル市で開催することを決定した昨年一月の国際委員会の決議に基き、現地教界との打合せをするのが目的で、その帰途に立寄られたのである。



一月四日 (日)夕刻、国際文化会館に於て、海老沢、大江、大石の理事三役が各夫人同伴で、同博士を歓迎し、会食をはさんで約四時間、親しく内情勢につき話合った。

(四) 神の国の体験と献身  
(五) 教会への奉仕と伝道

受けた著者がアシュラムの五大原則と守り方を平易に解説。

スタンレー・ジョーンズ博士の遺著  
**神の然り** B6判 220頁  
 定価1200円 送料250円  
 〈キリストに明け渡した人生〉  
 海老沢宣道 訳

日本を愛し、戦後十回の伝道を終え帰米後卒中に倒れた今世紀世界最大の宣教師が死に勝つ勝利の確信を説く万人必読の書。

ピツカード師はメソジストの宣教師として長年フィリピンの伝道に従事、度々スタンレーをその家庭に迎え、同国におけるアシュラムを進めた。現在はアラバマ州のハンティンソン大学の宗教学教授の傍、北米東南地区の指導者をしておられた。温厚でスリムな紳士で、四男一女の父、令息の一人は献身伝道者になっている。従て今後、北米連盟の事務局はモンゴメリー市にある同大学構内のマツモイ館二〇三号室に置かれることになった。

各地ニュース

香港アシュラム

第一回団員募集

香港日本人基督者会の島隆三牧師は三年前まで関東アシュラム委員として御協力下さった方で、昨春来折りと打合せの結果第一回香港アシュラムを左記日程で開催することに決定し、マカオ観光も含めました。一人でも多くの同志が参加して下さいよう希望します。

期間・六月十二日(金)―十六日(火)の五日間。  
費用・往復一人金十萬八千円  
朝食四回、昼食一回含む。  
日程・12(金) 10時、成田発

13(土) 13時50分、香港着  
14(日) 香港島、九龍巡り  
15(火) 一日アシュラム  
16(水) マカオ日帰り観光  
成田着、16時20分

◆集会報告◆

◎東北アシュラム(第八回)は既報の通り、去十月十日福島教会で開かれ、東北各地から三二名参加、一同主との交わりを感謝、今春にも一

日アシュラムを予定している。

◎教職ミニ・アシュラム(第25回)既報の通り、十月十四日埼玉県の深谷教会で開かれ、十四名参加、新築の立派な明るい礼拝堂で午前から夕刻にわたって主の御導きを受けた。尚、昼食は階下で婦人会の御馳走に与かり、霊肉共に満されて散会した。次回は一月十九日更生教会にて。

◎石神井アシュラム(第五回)も既報の如く十月十九日(日)朝拝からパプテスト教会で開かれ、海老沢理事長の説教、湧江淳一師の聖書霊解により祈りを導かれ、聖霊の充満を受けた。参加者は二二名であった。

◎札幌アシュラム(第七回)は十一月二、三日両日北海道クリスチャン・センターで開き、十一教会から三四名参加、ヨハネ福音書十五章を静聴して、主の御声を聞いた。

◆予告◆

▼城北アシュラム(第18回)日時・二月十一日(水)朝九時半

会場・新宿西教会(職安通り)  
主題・主を待ち望む(ペテロ第二の書三章一三節)  
会費・千円(昼食代を含む)  
助言者・神山良雄、海老沢宣道、有島歳弘、安藤 脩

▼城西アシュラム(第十一回)日時・四月二十九日(日)朝十時

会場・高円寺教会、草村美牧師  
問合せ先・電三三〇〇〇五二

▼関東アシュラム(第25回)日時・九月一四―一六日二泊三日

会場・奥多摩古里、福音の家  
主題・助言者、日程など近く決定。  
問合せ先・小石川白山教会、新原迪  
電話〇三・八二六・一七九七

◆個人消息

山根可弑師(87)昨年十月六日(月)午後二時、池ノ上教会にて羽島明牧師司式により山口県人渡辺かつ子姉(70)との結婚式を挙げられた。主の祝福が新家庭の上に豊かに在るように。

中略嶋雄師(87)最近まで月一二回説教をされたが全身不調のため、65年間の牧会を辞し、一月から左記に転居、専ら家庭療養に努められる由。吹田市佐竹台二一五―三三ルワーブル南千里五〇三号

◆賛助献金感謝

第56号報告以降にも左の方々から尊い御賛助を送られ感謝申し上げます。(分担金)九州地区 二万円

東北地区 二八六〇〇円  
関東地区 五万円  
谷本チサ 二万円  
村上 東 二万円  
松原 向 一万円  
井本富三郎 一万円  
大石嗣郎 一万円

合 計 一六八、六〇〇円

アシュラム生活の最良の友  
アパ・ルーム

(年6回刊行の日々の糧)  
国際的、超教派的、靈的な読物  
価 200円 70円、年1,620円  
発行所(256)小田原市国府津3-11  
振替口座(東京)1-193834 アパ・ルーム  
日本語版は創刊以来36年続行中

最新刊好評

スタンレー・ジョーンズ博士の処女作  
忽ち世界各国でベストセラーになった

インド途上のキリスト

金井為一郎元訳 湧江淳一新訳  
美装幀 B6判 250頁 価1900円 7250円

若干23才で英国統治下のインドに単身赴任。60年余の生涯を献身し、現代のパウロと称された博士が、主イエスから啓示された奥義は何であったか。

東京都目黒区中央町1-21-10